

2019年 おやじの山旅 北海道 道北の山
(2019年6月22日～6月30日)



利尻山登頂 1719m (6月24日9時40分)

1.趣旨

長年デンソー山岳部で活動した仲間達が定年を迎えた。
その仲間達で2016年におやじの山旅を立ち上げた。
かけがえのない仲間達でこれからも山を楽しみたい。(その4年目)

2.コンセプト

山を通して自然・郷土料理、現地の人とのふれあいを楽しむ。

3.計画

山城・山名 北海道 道北の山(利尻山、礼文岳、天塩岳、礼文島トレッキング)
期間 2019年6月22(土)～6月30日(日) 9日間

参加者と役割分担

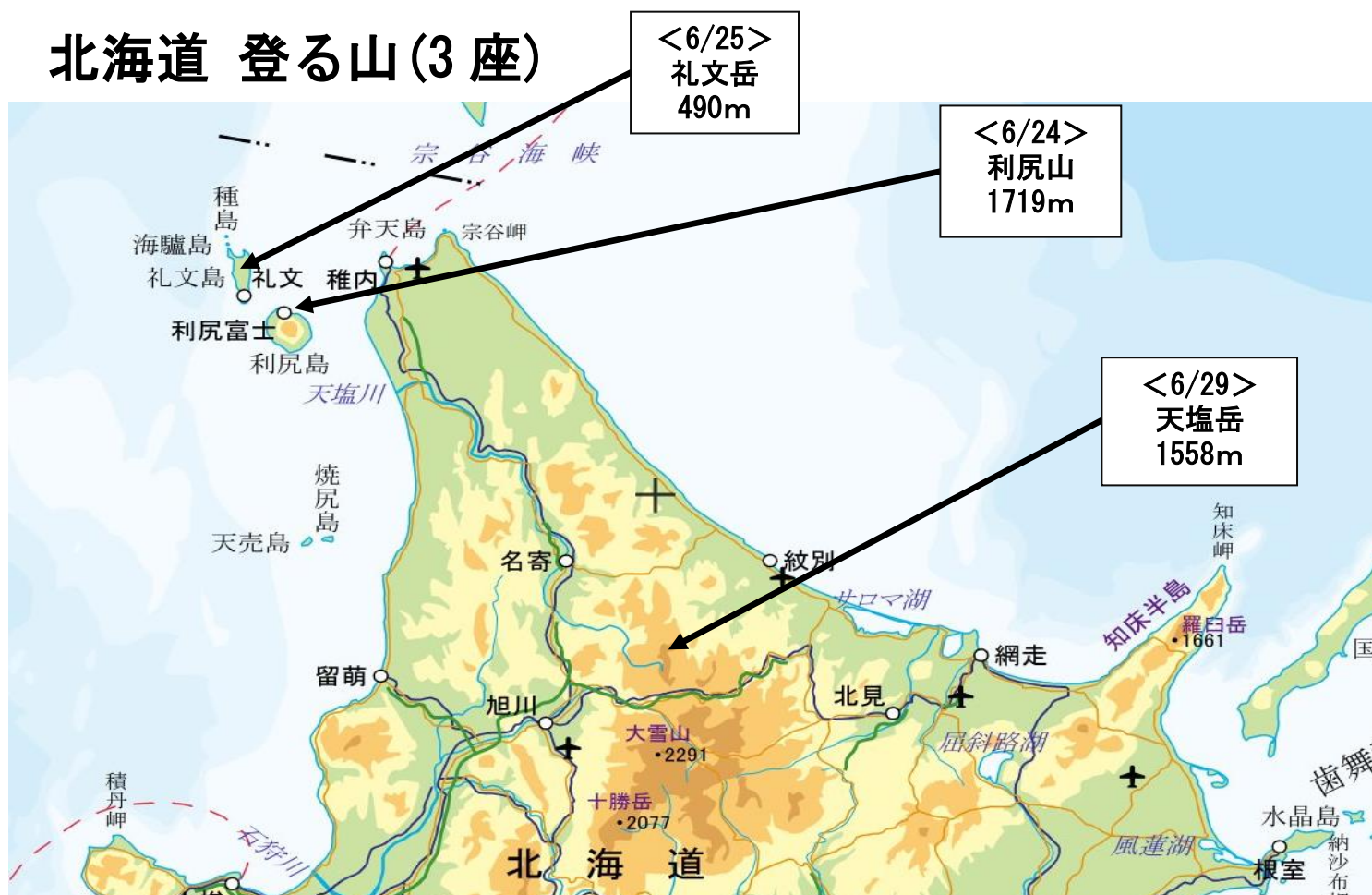
| No. | 氏名 | 役割 | 登山担当リーダー | 保険 | 生年月日 | 年齢 | 血液 |
|-----|---------|----------|---------------------|-----|------------|----|----|
| 1 | 金子 清 | CL・渉外 | | 登山S | 1955/5/10 | 64 | A |
| 2 | 藤田 勝啓 | SL・装備 | 天塩岳 | 登山S | 1953/6/6 | 66 | B |
| 3 | 町田 修 | SL・地形・記録 | 利尻山 | 登山C | 1955/9/5 | 63 | B |
| 4 | 町田 明美 | (ゲスト) | | ハイ1 | 1955/5/28 | 64 | B |
| 5 | 津田 廣一 | 記録(正) | 利尻島観光 | 登山S | 1953/6/20 | 66 | O |
| 6 | 津田 利栄子 | (ゲスト) | | ハイ1 | 1955/8/11 | 63 | B |
| 7 | 竹内 幹雄 | 気象・写真 | 礼文島トレッキング (島の南部) | 登山S | 1951/10/26 | 67 | O |
| 8 | 天野 広 | 会計 | 礼文岳 | 登山B | 1955/4/25 | 64 | AB |
| 9 | 上田 正博 | 記録(副) | 礼文島トレッキング (島の北部) | ハイ1 | 1950/5/23 | 69 | A |
| 10 | 佐溝 直彦 | アドバイザー | | ハイ1 | 1939/3/4 | 80 | A |
| 11 | 吉田 有希 | (ゲスト) | | 登山C | 1979/11/14 | 39 | B |
| 12 | 鈴木 浩子 | (ゲスト) | | - | | | |
| 13 | 玉澤 憲明さん | (ゲスト) | | - | | | |

スケジュール(概要)

| No. | 2019年 月/日 | 山名 | 標高 (m) | 登山コース | 行動時 間(h) | 担当 | 宿泊先 |
|-----|--------------|---------------------|-----------|------------------------|-------------|----|-----------|
| 1 | 6/22(土) | (移動) | | 新千歳空港～(深川・留萌経由)～稚内～利尻 | | 金子 | ペンション群林風 |
| 2 | 6/23(日) | 利尻観光 | | 利尻観光(天候の関係で予備日と登山を入替) | 6 | 津田 | ↑ |
| 3 | 6/24(月) | 利尻山 | 1719 | 利尻北麓野営場～長官山～利尻山(往復) | 10 | 町田 | ↑ |
| 4 | 6/25(火) | (礼文島へ移動) 礼文岳 | 490 | 利尻～礼文～礼文岳登山(往復) | 3:30 | 天野 | ペンションう～に～ |
| 5 | 6/26(水) | 礼文トレッキング | | 島の北部を歩く(岬めぐりコース) | 5:40 | 上田 | ↑ |
| 6 | 6/27(木) | 礼文トレッキング (稚内へ移動) | | 島の南部を歩く(桃岩展望コース)～稚内 | 2:40 | 竹内 | 旅館 山一 |
| 7 | 6/28(金) | (移動・観光) | | 稚内～協和温泉 | | 金子 | 協和温泉 |
| 8 | 6/29(土) | 天塩岳 | 1558 | 天塩岳ヒュッテ～天塩岳～円山～天塩岳ヒュッテ | 8 | 藤田 | ↑ |
| 9 | 6/30(日) | (移動) | | 協和温泉～新千歳空港 | | 金子 | |

- ・行き 6/21:ジェットスター 中部国際空港 11:50～(GK183 便)～札幌新千歳空港 13:35
- ・帰り 6/30:ジェットスター 札幌新千歳空港 14:30～(GK184 便)～中部国際空港 16:20

北海道 登る山(3座)



4. 思い出の1コマ、1コマ

6月22日 利尻島への移動日（曇り空ながら・希望に満ちて）



ヤッタ！ 憧れの利尻が見えた



燦然と輝く



初日からの大宴会

6月23日 予備日と入替え、利尻島観光（意外と好天になりました）



到着時の姫沼（上部はガス）



1周してくとガスが晴れて



オタトマリ沼から見えるだろう利尻



オタトマリ沼と利尻遠望



仙法志御崎公園でゴマちゃんに餌づけ



ベシ岬でポーズ

6月24日 今回の最大イベント 快晴の利尻登山



日の出の風景（群林風より）



長官山（8合目）から



ウコンウツギと利尻山



シマアズマギク&カネシメ(上) エゾノハクサンイチゲ
ワベンケイ(下)

頂上への最後の登り

山頂にて何思う？

6月25日 強風の礼文岳登山



利尻よサラバ



樹林の中を歩く



目指す礼文岳



クモキリソウ



花よ、君の名は？



レブンウスユキソウ



吹き飛ばされそう

6月26日 この日の礼文も風強く・・・(岬めぐりトレッキング)



強風のスコトン岬



エゾカワラナデシコ



花園を眺める面々



ゴロタ岬で＼(^o^)/



美味かな？



3日遅かったレブンアツモリソウ



高山植物園で談笑

6月27日 礼文最後の日、この日も曇って寒く・・・でも、楽しみました（桃岩トレッキング）



北のカナリアパーク



どれだけの花が見えるかな？



本地灯台遠望



エゾリトラノオ



お花畑の中、木道を歩く



レブンコザクラ



カメラに入り切れない大御馳走

6月28日 稚内から協和温泉への大移動（稚内観光）



日本最北端 宗谷岬



全員で大合唱 ♪流水溶けて・・・





キタキツネの親子



あけぼの像(天北酪農の夜明)



祈りの塔



貝殻を敷き詰めた「白い道」



鈴木さん見送り(稚内空港)



氷雪の門(樺太からの引き揚げ者を偲ぶ)

6月29日 曇り眺望なしながら、天塩岳登山を楽しむ



オオカメノキ



アオノツガザクラ



前天塩岳山頂



天塩岳山頂



サンカヨウの蕾



道案内の鹿さん達

5. 行動記録

6/23 (日) 利尻島観光 曇後晴れ

■ルート 宿→姫沼→オタトマリ沼→仙法志御崎公園→西海岸→
利尻見返台園地→ペシ岬→宿

■行動 9:00 宿→9:10 姫沼→10:10 オタトマリ沼→

11:00 仙法志御崎公園→11:35 人面岩・寝熊の岩（西海岸の奇岩）→

12:00 昼食（味楽）→14:00 利尻見返台園地→15:00 ペシ岬→15:20 宿

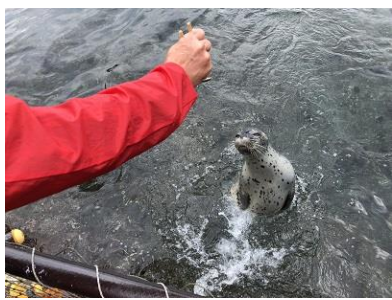
天気の関係で利尻登山と観光の予定を入替え、今日は観光に変更。
ペンション群林風で美味しい朝食を味わってからの出発。まずは姫沼



へ。まずは全員で記念写真をパチリ。“この曇り空じゃ、逆さ利尻は見えないだろうな”と、思いながら周囲を1周。登山ではないので、皆の顔もまったりしてる様に思える。三々五々、賑やかに話しながらの散策。ほぼ1周した所で、

参加メンバー

CL：津田廣一、SL：天野広、金子清、藤田勝啓、町田修、町田明美、竹内幹雄、津田利栄子、上田正博、佐溝直彦



喜びの声が聞こえる。近くまで行ってみると、何と逆さ利尻が・・・大満足して、次のオタトマリ沼へ。駕泊からの利尻と違い、鬼脇からの岩峰剥き出しの厳しい利尻が見える。仙法志御崎公園へ着いた頃には晴れてきた。ゴマちゃんが顔を出して迎えてくれた。賢く何故か、餌を持っている人の方へ寄って



る。手を出すだけでは無視される。しばしゴマちゃんと遊んで癒される。人面・寝熊の奇岩をチラッと見て、宿で聞いた日本一行きにくいミシュランガイド記載店



「味楽」へ。15分位、並んで入店。看板メニューの利尻昆布で

ダシを取ったしょうゆラーメンに舌鼓。昼食後、某女性の強い要望でバニラアイスに利尻昆布塩を振りかけ、乾



燥ウニを乗っけて、利尻昆布の根のスプーンで食べるという特許取得スイーツを求めて神居海岸へ逆戻り。沓形からの利尻登山口である見返台園地へ。駐車場から展望台までの急登階段がきつい。明日のトレーニングか？残念な事に、



利尻山頂に雲がかかってしまった。最後にペシ岬へ登って（これも明日のトレーニング？汗が噴き出す。）宿に帰った。明日登る利尻を眺めながら利尻温泉で汗を流し、宿の夕食に

堪能した一日であった。
記／津田 廣一

6/24 (月) 利尻山 (晴れ)

■ルート (利尻北麓野営場⇔長官山⇔利尻山 1721m、ピストン)



参加メンバー
 CL ; 町田 修
 SL ; 金子 清
 竹内 幹雄
 藤田 勝啓
 津田 廣一
 津田 利栄子
 天野 広
 上田 正博
 吉田 有希

■行動 (行動時間 9 時間)

4 : 30 (登山口着) 4:30 発→6 : 25
 (6合目見晴台) →7 : 30 (第2見晴
 台) →8 : 10 (避難小屋) →8 : 45
 (9合目) →9 : 40 (山頂) →10 :
 50 (8合目) →12 : 00 (7合目) →
 12 : 40 (5合目) →13 : 30 (甘露
 水) →13 : 40 (登山口) 着

北緯 45 度、利尻山の日の出は 3 時 46 分。目覚めた 4 時、群林風 (グリーンウインドウ) の出窓のカーテンを開けると、鴛泊コース長官山から山頂付近までが、青空にくっきり見えている。素晴らしい天気だ。北麓野営場の登山口まで宿の車で送ってもらう。途中、キャンプ場泊の吉田有希をピックアップする。15 年前の 7/27 日、家族 4 人で泊まった野営場キャンプ地の様子とは随分様変わりしている (廃れているのではなく、新しく機能的に今風になっっている)。恒例のラジオ体操を済ませ、靴底洗い場 (これほど徹底した施設は初めて!) で島外植物の種子を洗い落とし、しらびその登山道に入る。樹林の中は風もなく暑い。6 合目の見晴台に出て、やっと視界が広がる。東の海上に薄っすら見えるのはノシャップ岬か、眼下には鴛泊港とペシ岬が、そしてその奥に礼文島が横たわっている。7 合目、8 合目と順調にピッチを延ばす。合目標柱が標高表示 (例 : 8 合目 長官山 1218m) と地名がキッチリ記されており、現在地把握が正確にで。長官山まで来ると、山頂へ続くルートがきれ



三段で靴底を洗う



いに見える。少し下った所の避難小屋のトイレブースで携帯トイレを一部のメンバーが試行していた。9 合目まで来ると、山頂は近い。此処から、かつてのルートは火山性の小砂利がえぐれ、その上急登で 1 歩進んで半歩下がる、悩ましいルートだった。しかし現状は砂利をネット状にまとめ、階段状に整備してある。これは大助



ペシ岬



遥かに礼文島

かりだった。登山口から 5 時間で山頂に到着、皆さん良く頑張りました。途中、利尻ひなげしやウコンウツギも見られ、快適な利尻山を楽しめた。帰りは同じルートを足早に下る。途中、利尻空港の滑走路が見えた。鈴木さんが乗った飛行機は 13 : 30 着とのこと、時間差で着陸の様子は見られなかった。甘露水でのどを潤し、登山口に着く。

記 / 町田 修



9

利尻ひなげし



ウコンウツギ

6/25 (火) 礼文岳 晴れ一時曇り

■ルート (内路登山口→合流点→礼文岳 490m、ピストン)



参加メンバー

| | |
|----|--------|
| CL | 天野 広 |
| SL | 金子 清 |
| | 竹内 幹雄 |
| | 藤田 勝啓 |
| | 町田 修 |
| | 町田 明美 |
| | 津田 廣一 |
| | 津田 利栄子 |
| | 上田 正博 |
| | 佐溝 直彦 |
| | 鈴木 浩子 |

■行動 (行動時間 3時間 50分)

10:05 香深港着 → 10:40 内路登山口発 → 11:40 合流点 → 12:35 頂上 → 14:30 登山口着
→15:30 ペンションうーにー着

香深港でフェリーを降り、ペンションの車に荷物を積む。ここからバスにのる予定であったが、ペンションのご厚意により登山口まで送ってもらう。50分近く得になった計算だ。登山口までの海岸近くではウニ漁を見ることができ今夜の食事を期待する。快晴のなかビデオでも確認した階段を上り、まずは急登をジグザグに登って行く。近くの丘陵の景色が美しい。急登を過ぎると緩やかな登りになり一時間ほどで起登白コース(廃道)との合流点に着き一本取る。400mの偽ピーク付近でハマナスにそっくりな花をタカネバラと教えてもらう。偽ピークを下り最後のハイマツの急登に差し掛かると雲行きが怪しく風も強くなってきた。頂上に着くがガスで展望は全くなく風も強くて寒い。記念写真を撮り早々に退散。少し下った風の少ない所で一本。偽ピークを過ぎると天候が回復した。日本海から吹く西風で頂上付近だけ天気が悪かったようだ。登山口に近づくと昨日登った利尻山が海上に浮かんで見える。遠くには明日行く北の方もくっきり見えている。明日の岬めぐりコースを期待する。帰りもペンションの車に迎えに来てもらい、また50分ほど時間を短縮でき、良い宿を選んでくれた竹内さんと金子さんに感謝する。

記/天野 広



頂上



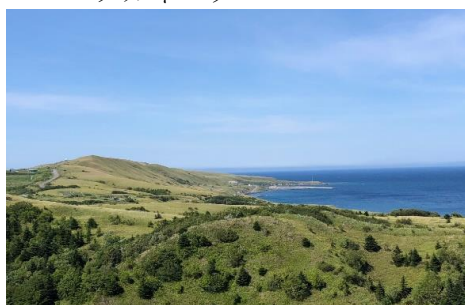
タカネバラ



歩行中



利尻山



北側の景色



ウニご飯

6/26 (水) 礼文島岬巡りトレッキング 曇り

■ルート (民宿う〜に→フェリーターミナル→スコトン岬→トド島展望台→ゴロタ岬→鉄府→澄海岬→礼文アツモリソウ群生地→久種湖→高山植物園→フェリーターミナル→民宿う〜に)



参加メンバー
 CL ; 上田正博
 SL ; 竹内幹雄
 金子清
 天野広
 藤田勝啓
 町田修
 町田明美
 津田廣一
 ゲスト ; 津田利栄子
 佐溝直彦
 鈴木浩子

■行動

6 : 30 起床 民宿う〜に発 7 : 30 →フェリーターミナル初 (バス) 7 : 45 →スコトン岬着 8 : 50
 →ゴロタ岬 10 : 25 →澄海岬 12 : 27 →礼文アツモリソウ群生地 14 : 14 →久種湖 13 : 10
 →高山植物園 16 : 12 →フェリーターミナル 16 : 54 →民宿う〜に 17 : 05

今日は朝一番のスコトン行きバスの乗るため、朝食を早めてもらいバス停まで送って頂いた、約1時間の東海岸バスの旅を楽しみながら、スタート地点のスコトン岬到着、最北限の地の天候は曇りで10m以上の強風の中自然の厳しさと侵食された海岸線の美しさに目を奪われた。

スコトン岬から江戸屋山道に向かう途中に海岸線に降りる道があったが、強風のため断念した。

トド島展望台をからゴロタ岬へ100mほど登る途中には、多くの高山植物の花が咲き、感動した。

ゴロタ浜への下りは、強風に飛ばされそうで、手すりにしがみつきながら下って行った。

浜辺の海岸線を1時間ほど歩き澄海岬へ着くと、売店が在り、トドの串焼きを食べた。(クジラ味)

その後浜中までは内陸部を進み、途中礼文アツモリソウの群生地では、開花時期が終わっていた。

バスの時間待ちの間に、久種湖の湿原を回り、高山植物園へ立ち寄ったが、アツモリソウを見る事が出来ず残念であったが、地元の礼文高校(生徒数20人)卒業のアツモリソウのような受付嬢との会話が楽しく癒されました。バスに手を挙げて乗車し、民宿へ帰り、温泉で疲れを癒した良い1日でした。

記 / 上田 正博



6/27 (木) 桃岩トレッキング 曇

■ルート 知床→本地灯台→桃岩展望台→香深フェリー乗り場



参加メンバー
 CL：竹内幹雄
 SL：天野広
 金子清
 藤田勝啓
 町田修
 町田明美
 津田廣一
 津田利栄子
 上田正博
 佐溝直彦
 鈴木浩子

■行動 8:00 知床→8:45 本地灯台→
 9:45 桃岩展望台→
 10:42 香深フェリー乗り場
 12:25 フェリー出発→14:20 稚内港

6:50 朝食、7:30 宿を出発。知床まで宿の車で送って頂く。途中、「北のカナリアパーク」に寄って、映画「北のカナリアたち」でロケの舞台になった「麗端小学校岬分校」をバックに写真を撮る。晴れていれば利尻島が

一番美しく望める地であるが曇っていて見られない。そして知床バス停へ到着。ラジオ体操をして体を慣らしてから出発する。草原の中を元気よく歩いていくとお花がチラホラ咲いている。さらに進んで元地灯台に到着する。その向こうは海だ。ガスっているので景色は見えないがじっとしていると寒い。休憩を短くして桃岩展望台に

向かう。草原には沢山の花が咲き、足を止めては写真に納める。ツバメ山付近でもガスっていて元地海岸の景色は見えない。やがて、キンバイの谷に到着したがレブンキンバイソウはまだこれからが旬なのか、あまり咲いていない。そして、桃岩展望台に到着。トイレ休憩をしてから集合写真を撮る。ガスってなければ桃岩越しに猫岩が望めるはずだが何も見えない「残念だ」。ここからフェリー乗り場までゆっくりと下っていく。予定より早くフェリー乗り場に到着した。宿に預けた荷物はここで受け取り、12:25 発の船で稚内に向かう。

14:20 稚内港に到着して、本日の宿「山一」に行く。夕食まで時間もあるので近くの「わっかない海の駅」にある温泉「港の湯」に入る。湯に浸かり一日の疲れを癒す。宿に戻って夕食を頂く。凄いごちそうに、「ビックリ！」お腹いっぱいになる。

記／竹内 幹雄



北のカナリアパーク



元地灯台



キンバイの谷



レブンキンバイソウ



桃岩展望台



お花を見ながら下山



「山一」に宿泊



夕食は豪華な料理

天塩岳 6/29 (日) 曇り

■ルート (天塩岳ヒュッテ→連絡路分岐→前手塩岳→天塩岳→避難小屋→新道分岐→天塩岳ヒュッテ
 全行程 13.2km 行動予定 8 時間)



参加メンバー
 CL ; 藤田 勝啓
 SL ; 津田 廣一
 金子 清 町田 修
 上田 正博 天野 広
 竹内 幹雄 津田 利栄子
 玉澤 薫明



■行動 (行動時間 7 時間 45 分 休憩含む)

4 : 00 起床 4 : 50 協和温泉発→ 5 : 50 天塩岳ヒュッテ→ 6 : 10 出発→9 : 00 トラバース路分岐前→
 9 : 50 トラバース路分岐後出発→10 : 45 天塩岳→11 : 34 避難小屋→ 12 : 50 新道分岐→ 13 : 55 天塩岳ヒュッテ

天塩岳ヒュッテ横でラジオ体操をして出発。行動予定は 8 時間。泣き出しそうな天気で気分さえない。シラカバの道を進むと、マイヅルソウ、オドリコソウが迎えてくれる。本日もたくさんの花に出会えそうだ。何回か小橋を渡って、1000 m 辺りから緩やかな登りになる。玉澤さん、藤田は前天塩岳のトラバース路を歩く。山の展望はきかないが山道に咲く花々に目を楽しませてもらった。シマキンポウゲ、シマハンショウヅル、オレイジソウ、ツマトリソウ、コケモト、イツツジ、ゴゼンタチバナ、ヨツバシカガマ、エゾイチゲ、カハナシクナゲ、エゾゴゼンタチバナ、サカサマ、ツバメオト、ミヤカラマツ、ヘニバナ仔ヤクソウを写真に取めた。天塩岳頂上直下でオヤジ (熊) の糞を見る。

楽しみにしていた山頂からの大雪山系は見る事が出来ず、早々に下山した。

(記 : 藤田)



オドリコソウ



シマハンショウヅル



シマキンポウゲ



ツマトリソウ



コケモト



イツツジ



ヨツバシカガマ



エゾイチゲ



エゾゴゼンタチバナ



ツバメオト



ミヤカラマツ



ヘニバナ仔ヤクソウ

留守組（佐溝さん&町田明美さん）行動記録（6月24日、29日）と移動日記録（6月28日）

ポン山（444m）軽登山 6/24（月） メンバー；佐溝直彦、町田明美

群林風～登山口（野営場前）～宿の車で送って貰う

登山口（8:00）～甘露泉水～ポン山（8:50）

樹林の中の歩き易いルート・山頂の眺望は360度で大変良い・・・期待以上

山頂（9:30）～甘露泉水（10:00）

林道経由で利尻富士温泉付近の車道へ下山（10:40）

*前日の島内観光でペン岬や姫沼は済んでいたのので午後は余裕時間として過ごせよかった

稚内～協和温泉への移動 6/28（金）

08:30 トヨタレンタリース稚内店で受付（金子） *前日に受付可能であれば済ませておく。

↓

09:00 山一旅館出発

↓

09:10 道立宗谷ふれあい公園

↓

10:10 宗谷岬

↓

10:40 稚内空港（鈴木さん下車）

↓

11:10 豊富北IC

↓

11:30 幌延IC

↓

12:20 道の駅 なかがわ（休憩）

↓

13:30 美深北IC

↓

13:50 名寄IC

↓

14:00 道の駅 なよろ（休憩）

↓

14:30 士別駅（佐溝さん下車）

↓

14:50 士別剣淵IC

↓

15:30 比布JCT

↓

15:40 愛別IC

↓

16:00 協和温泉（泊）

浮島湿原と森のガーデン巡り 6/29（土） メンバー；佐溝直彦、町田明美

協和温泉（9:10）～愛別ic～紋別道浮島ic～浮島湿原P（10:15）

P（10:20）～浮島湿原（10:50-11:40 木道散策）～P（12:05）

870Mの浮島湿原は訪れる人も少なく静かな自然の佇まい、ワタスゲやイソつつじの白系の花が優しい。

～上川層雲峡ic～大雪森のガーデン（12:50）

森のガーデン散策・軽食（12:50-14:50）

・・・見所は「上野ガーデン」・ケシの青い花（入場¥800）及び大雪山眺望

大雪山の眺望を楽しむだけなら無料で車で入れます。（見たかった景色だが曇中で・残念！）

～協和温泉（15:30）

6. 特別寄稿

2019.Oyajī.北海道の山旅感想紀行

2019.8.12 町田 修

山に登り、地域の文化とふれ合い、地域の食を楽しむ。まさに Oyajī のテーマを実践したような 2019 の山旅だった。もっと具体的に云うと“山行”計画&“山行”報告とは云い難い、花紀行であったり、周遊旅行であったり、公園散策であったりと、登山の合間に登山を離れた地域の名所や観光を織り込んだ山旅？(旅行)だった。これからの我々の行動指針は“山旅をゆっくり楽しむ”ぐらいの計画が、身の丈に合ってくるんだろうか？もはや硬派気取りの“山家”など出番ではないことは確からしい。

さて、今年も記憶に残ったシーンを邂逅しながら旅の思い出を反芻してみよう。やはり冒頭の計画、利尻山の登頂だろう。報告書にも書いたが、9合目から上部の溶岩砂礫帯(右の写真参照)が随分歩きやすくなっていた。地元の貴重な観光資源に対する熱意(守り育てる)が伝わってくる。時々違う山で、もう少し登山道やトイレを整備したら、登山客も増えて地域もにぎやかに活性化され、リピータも多くなるのになー・・・と思う山もある。半面、整備しすぎて立派な階段のオンパレードでうんざりの山もある。自然との調和を保ちながら気持ちよく歩ける登山道との兼ね合い、難しいですね。例えばさわがに山岳会が継続的に実践している梅海新道(糸魚川の親不知～北ア、朝日岳)の登山道整備など、素晴らしい事例もある。我々樫の木会もお世話になるばかりでなく、お世話をするような事も地元の山で、少し考えていきたいですね。



少し北海道から話が離れたが、次に思い出するのが 12mor13m/s の強風の中、礼文の花散策です。普通の人なら、あんな悪天候の中、何を好き好んで歩くのか？不思議に思うところだろうが、そこはやはり我々の強みなんだろう。山で体験した、したたかな経験と凶太い神経が GO! を懸けられる。ところで話したいのは、その強風でスコトン岬に押し寄せる波に乗って、大量のニシンか、はたまたカンパチか、その正体が知りたい。岸壁の上から波に乗って押し寄せる背色と動きを見ていると、私は鯨(♪今年もニシンが～来るぞー、ハマランかい・・気張らんかい♪)の大漁を思わずにはいられなかった。しかし、現実的に考えると利尻昆布か礼文昆布か知らないが、きっと波に引かれ大量に押し寄せる魚みたいにうごめいて見えたのだろう。

礼文の宿で盛り上がった梅(とが)さんとの語らい。天塩の宿で歌ったカラオケ宴会、玉澤さんの力の籠った節回し、始めて聞いた佐溝さんの歌、愉快的思い出です。話は前後するが、北の「カナリアたち」パークの玄関先で感じたこと。映画のストーリーははっきり覚えていないが、我々も北海道の旅を終え、南へ続く山々を登り終えた何年後かに、きっと原点の北海道が恋しくなるような気がした。元気で Oyajī の山旅を続けなければならないね。

今年も玉澤さんと有希さん鈴木さんが参加してくれた。凝り固まったデンソー色を北海道カラーと千葉カラーで希釈し、Oyajī カラーの側面を作り出してくれる、貴重な方々です。残念だったのはいつも元気なお姉さんが参加できなかったことです。でも Hometown 刈谷では達者にお喋りしています。次回はずひご一緒しましょう。



利尻島・礼文島おやじの旅 感想文

2019. 8. 29 上田 正博

おやじの山旅も4年目を迎え、今年は北海道最北端の利尻、礼文島の山行となった。前日に札幌にきて、友人と親交を深めることが出来た。翌朝空港で、全員が合流して、一路稚内のフェリー乗り場へと車を走らせた。フェリーに乗り込み、カモメに送られて進むと前方に、利尻富士の美しい姿を前に、以前観光で訪れた時に登れなかったのが、期待と喜びが膨らんできた。翌日の計画日は、天候が悪く次の予備日にアタックすることとした。運よく当日は、まれにみる好天に恵まれ、早朝からスタートし、往復9時間の行程を疲労感を克服し登頂できたことに、充足感と感謝の気持ちでいっぱいの日だった。宿に就くと、近くの町営の温泉で疲れを癒し、夕食はバフンウニなどの珍味を食べ、その後仲間と酒を飲みながら、健康で登山できる喜びを噛みしめた。次の日は礼文島に渡り、礼文岳、岬巡り、桃岩の散策を楽しんだ。利尻島は、海底火山の隆起による島で島全体が山であり、すそ野が海岸線をとっている。礼文島は大陸から引きちぎられた島で、海岸線が険しく入り込み趣が違う。礼文島は自然のお花畑とも言われ、色とりどりの花が咲き乱れて、厳しい自然環境の中に凛として咲く雄姿に心打たれながらの楽しい山行だった。4回の登山で北海道の多くの山に登れた充実観と、おやじの山旅のメンバーに感謝します。また山を通して、できた新しい友人関係を嬉しく思います。来年からも、この山旅を通して、人生の感動のページ作りできるように、体力づくりをして、山歩きが出来る幸せを求めていきたい。



縦の木会山行 同行感想文

縦の木会山行 同行感想文

2019. 9. 23 玉澤 憲明

この度のスケジュールは、日本海に浮かぶ鋭峰「利尻山」、花咲き競う島の展望台「礼文岳」、国内4位の長流河川、天塩川の源流部「天塩岳」への登頂が目的であるとの事。素晴らしい計画である。かけがえのない岳友達との再会を楽しみに、日々を過ごしてきました。自分には昆布漁の関係で、約1週間の利尻・礼文の同行は無理。しかしながら、皆の顔を1日でも早く見たいとの想いで、既に来道していた藤田さんと6/21(金)千歳市道の駅「サーモンパーク」で合流。再会を祝い、一献交わし、その後現地2台で車中泊。翌朝の6/22(土)トヨタレンタ「ポプラ店」で、皆に再会出来ました。持参した酒を渡す事が出来、無事送り出し。



6/28(金)は、愛別町「協和温泉」での待合せ日。午前9時に浦河を立出。新日高町、富良野市、旭川市等、11~12カ所の自治体を経由し、元湯「協和温泉」へ午後4時過ぎ到着。玄関横に、コマクサがたくさん咲いている。よく見ると高山のものに比べ、赤色系が薄く、下界に降りてくると「シロバナノコマクサ」に近くなるのかな?等と思ったり、独身の30歳前に、この愛別町の診療所、開業医を製



薬メーカーのプロパーとして担当していた頃に、「愛の別れの町」とは、随分と悲しい名前の町だな?何か、原因があったのか?等と考えていたな~と思いながら散策。そのうちに、各メンバーが到着。間もなく佐溝先輩も。先輩とは6年位の交友関係がある。三矢女史からの紹介で知り合っただけで意気投合。そして藤田さんともつながった。病弱状態になり、入院・加療中との話を聞いていたので、先輩の顔を見るまで心配していましたが、以前と変わらない表情で一安心しました。



翌日の6/29(土)、天塩岳登山日。昨年のニセイカ登山口の看板を横目で、登山口のヒュッテを目指し3台で走行する。昨年、ニセイカウシュッペ登山口へ向かう林道のゲートで、施錠キーの誤った番号告知により開かなかった事等が思い出される。間もなく「天塩岳ヒュッテ」に到着。7、8年前に旭川・北見の岳友達と登った時は、新道連絡分岐より登り、さほどキツイ山ではなかったし、故障も起きなかったとの思いもあったが、今回は前天塩岳

経由の周遊コースで距離も長く、前天塩岳への急登になり巻き道の手前で、足の攣りやこむら返り等の症状が出始めた。それを察知した藤田さんが、金子さんと前後でリードしてくれた。巻き道入口で、前天塩岳は諦めました。藤田さんと二人で、ゆっくり巻き道を歩き、前天塩からの合流地点でメンバーと合流、皆の励ましにより「天塩岳頂上」制覇。下山中、避難小屋(西天塩岳ヒュッテ)近くまで来ると、まったく快適な状態になりました。皆様の親切やエスコートに感謝。下山後の夕食会、6/29は私の誕生日。毎回、皆様が祝ってくれました。誠にありがとうございます。71歳になりましたが、まだ61歳という気持ちで頑張ります。



6/30(日)、皆、帰路に着く移動日。帰宅するには、多少遠くはなるが、皆と少しでも一緒の時間をと、竹内さんに同乗して頂き、山の話や、写真・DVD・山の歌など、色々話しながら千歳のトヨタレンタへ。ここで皆と別れ、道の駅「ウトナイ湖」での食事後、大千軒岳を目指す藤田さんとも別れて、帰路に着きました。楽しい日々でした。来道する方がいましたらご連絡下さい。又の再会を楽しみに!

7. トピックス (参考記事)

登山口確認での脱輪事故顛末について

2019.10.1 津田廣一

何が起こるか、分からない。おやじの山旅前に狩場山と観光を狙い、18日出発を計画。ところが、3日になって、予約していたジェットスター便の突然の欠航(減便)が判明、急遽スカイマーク便へ変更。今回は、トラブルがあるかな?とと思っていたが、最大のピンチに遭遇してしまった。函館観光の後、予定通りに島牧 YH へ4時半に到着。荷物を部屋に入れて、翌日の狩場山の登山口の下見に出発。「1本道で迷う事もないですよ。」との事だったが、往復でも1hだし、念のためにと賀老の滝へのドライブ気分が出発。5時に登山口の通行止めゲートへ到着。登山口を確認。登山者情報を見ようと登山届入れを見ようとしていると、「帰りの事を考えて、車の向きを変えたら!」と妻の声。道幅と車幅から、駐車スペースまでバックするか、ハンドルを切り返して方向転換するか、迷っていると、「早く向き変えて帰ろう!」との催促。“車のサイズから、ハンドル切り返して何とかなるか?”と、目一杯ハンドルを切ったのが、運の尽き。右前輪がぬかるみに。“しまった!”と思うが遅かった。妻と二人、力を合わせて脱出を試みるも脱出できず。タイヤの下へ石や木の枝や立て看板の端を入れてみるも駄目で、時間はあっという間に過ぎていく。5時半を過ぎ、このままじゃヤバイ。防寒着もなく、車中で一晩は過ごせない。観光で人が入っているかもしれない賀老の滝(車も1台止まっていた)まで歩こうと決断。1hぐら



私の目になく、妻の目にあつたハクサンチドリ

いか?と、検討をつけて小走りと早足で必死に歩く。妻が「先へ行って!」と言うが、「バカやろー、クマが徘徊している様な所で一緒に行動しないと餌になるだけだぞ」と、一喝。熊鈴もないので、とにかく声を出して歩く。「あ!タニウツギ」「ハクサンチドリが咲いてる。綺麗だね〜」と妻。この非常時に関心するしかない。開けた場所で、携帯チェックするも圏外。1h近く



狩場山登山口への林道の一風景(インターネットより)

歩くも到達しない。1h15分程歩いて、やっと見覚えのある所に来たと思ったら、車が1台去っていく。「おへい!」大声を張り上げ、大きく両手を振るが無情にも車は行ってしまった。妻がガッカリしているが、その時に私の目に、“緊急電話”の文字が!“シメタ!これで連絡取れるかも?”賀老の滝のトイレへ飛び込む。村の役所、警察(交番)、消防の3か所へ連絡可とある。状況から警察だと判断、受話器を持って警察のボタンを押す。中々、出てくれない。焦るが待つしかない。1分ぐらいと思うが長かった。やっとつながり、事情を話す。「宿に連絡を入れて欲しい事。登山口で脱輪してしまったので、車を引き揚げてくれるJAF等に連絡して欲しい事。」受話器の向こうからは、「準備してすぐに行くから、決してトイレから出ずに待っていて下さい。」と、強く言われた。連絡がついてホッとすると、喉がカラカラになっていた。ペットのお茶を飲み、夕暮れの写真を撮ってトイレの中で待つ。8時にYHのオーナーが救助に来てくれた。その車に乗り込んで、再び登山口へ。「心配していた」との事。ありがたかった。ロープでけん引してもらい脱出成功。宿に到着し、夕食を頂く。本当に美味しかった。



賀老の滝 駐車場からの眺望(夕暮れ時)

8. 参加者の所見と感想

<金子 CL>

おやじの山旅 4年目を迎えた。

1年目：北海道の山(道央・道南)、2年目：北海道の山(道東)、3年目：北海道の山(大雪)、今年4年目は北海道の山(道北)を選定し利尻山、礼文岳、礼文島トレッキング、天塩岳を計画した。

初日の山は過去3年連続雨の登山だったが今年は幸運にも快晴の利尻山登山ができた。礼文島では霧と強風で360度の展望は見る事ができなかったが高山植物を楽しむことができた。天塩岳は玉澤さんと前日に協和温泉で合流し一緒に登った。昨年は悪天候が続き大幅な計画変更を余儀なくされたが今年はほぼ計画通り登ることができた。今回の参加者はゲスト5名を含め13名(内女性4名)の仲間が集まった。いつも単独で現地合流してくれる玉澤さん、鈴木さん、吉田有希さんには感謝！おかげで楽しく充実した山行ができた。次回も参加を期待したい。

全体を通し振り返ってみると、過去3年のおやじの山旅の経験から計画、行動に深み(味)が出てきたように思う。たとえば連泊することで行動に余裕ができ高山植物、景色、おしゃべりを楽しみながら登山ができています。宿でゆっくり寛げている。また、個人の体力、体調に合わせショートコース、観光コースを計画に折込み全員が山旅に参加できている。そして日程に予備日をもうけることで天候を考慮した計画変更ができています。など、現地での柔軟な対応がスムーズに出来るようになった。これからも身の丈に合ったおやじの山旅を計画、実行したいと思う。それには参加メンバーの健康管理が重要になってくる。日々の生活の中に運動習慣を取り入れ健康な体の維持に努め、これから先10年継続に向けて皆さんと共に精進していきたいと思う。

<天野 会計担当>

会計

宿の支払いはカード払い+事前振り込みで、多額の現金を持ち歩かなくて良かった。

昨年と同じく、下記2項の原則を守りうまく計算できた。

1. 宿泊と交通費以外は原則個人払い
2. 個々で払えない場合(ドリンクなど)は各自で金額と銘柄を必ず記録する事。

礼文島では、登山口までペンションの方に送迎して頂き、1,780円/1人バス代の節約ができた。

個人の支払いも銀行振込で、現金のやり取りがなくスムーズに対応して頂いた。

感想

各自(含むゲスト)の役割をしっかり果たせて、とても楽しい山旅だった。

(移動・山行・装備・観光・花・宴会・ゲスト)

移動もスムーズでストレスなく余裕があって良かった。

選んだ宿も親切で食事も満足できた。

今回バイクの食事がなく食べ過ぎることがなく良かった。(旅館山一では食べ残したが)

心残りは礼文島での景色が見えなかった事です。(風が相当強くまたガスっていたため)

もう一度天候の良い日に礼文島散策に訪れたい。

<津田 記録担当>

今年は、“おやじの山旅”とのタイトルながら、登山は利尻山・礼文岳・天塩岳の3座のみ。

礼文のトレッキングやレンタカー利用の利尻観光、移動と観光等、観光的要素が今までより多く、報告書としてまとめ上げるのに工夫が必要かな？と、思っていたが、その通りとなった。

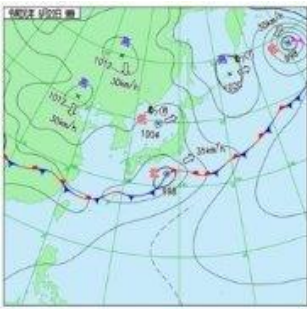
過去の報告書スタイルを維持しつつ、登山と観光の報告を整理できたかな？

<竹内 気象・写真担当>

気象担当 所見

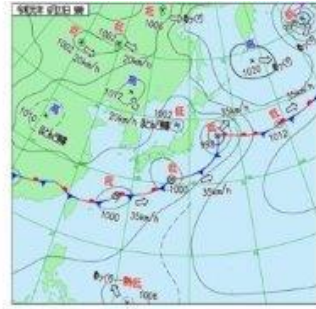
曇り空やガスが湧いて景色が見えない日が多かったが利尻山は晴れて展望よし。全体を通しては雨にも降られず良かった。

6月22日曇 移動



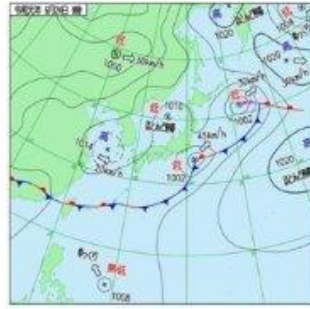
南海上に延びる梅雨前線を低気圧が東へ進む。

6月23日曇 観光



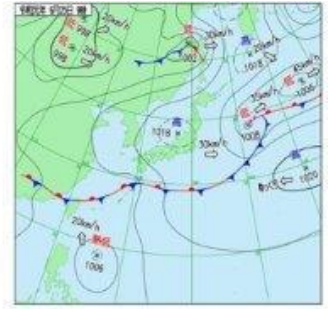
上空に寒気を伴う気圧の谷が近づく。

6月24日晴れ 利尻山



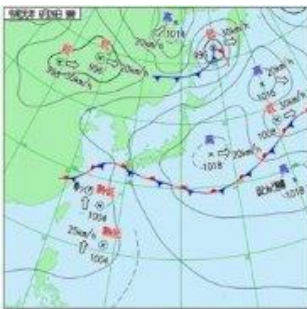
低気圧が東海沖を東進し、前線はやや南下する。

6月25日晴れ 礼文岳



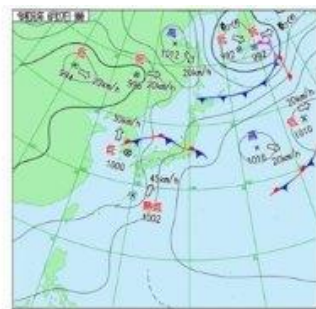
本州付近に中心を移す高気圧に覆われる。

6月26日曇 トレッキング



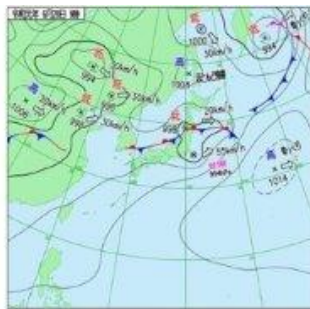
高気圧の中心が東へ離れ、湿った空気が流れ込む。

6月27日曇 トレッキング



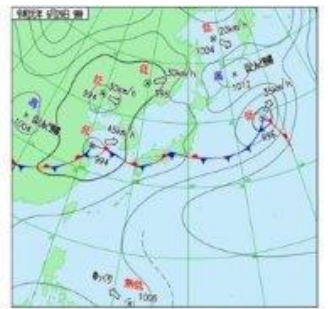
前線が東進し、雲に覆われる

6月28日曇 移動



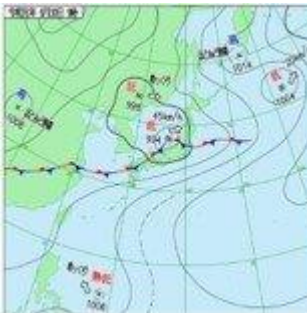
台風は東へ離れ、気圧の谷や湿った空気の影響を受ける。

6月29日曇 天塩岳



大陸から延びる梅雨前線が本州付近に停滞。

6月30日晴れ 移動



梅雨前線が本州付近に停滞

南から暖湿気が入り、活動が活発に。

写真担当 所見

利尻山の展望が良かった。礼文岳、天塩岳はガスがかかって絶景が見られなかったのは残念でしたが礼文島の花が沢山咲いていたのが良かった。

感想

予備日を使って観光も楽しみ無理のない登山ができました。

<藤田 SL>

礼文島は「花の浮島」と呼ばれ、300種類の花があるそうです。

リシリヒナゲシ、レブンウスユキソウは利尻島、礼文島でしか見られない固有種。

花の百名山のシコタンハコベ（利尻岳）、レブンソウ（礼文岳）も是非見てみたい・・・。

今年に行く前から山の本とインターネットで花情報を集めて楽しんだ。

利尻に3連泊、礼文に2連泊して、ゆっくりと山に向き合えたのも良かった。

山行中はスマホとコンパクトカメラでたくさんの写真を撮る事が出来、その中で記憶に残った花の一部を紹介します。



リシリヒナゲシ [利尻島固有種]



シコタンハコベ



レブンソウ [礼文島固有種]



レブンウスユキソウ [礼文島固有種]



レブンシオガマ



レブンキンバイソウ [礼文島固有種]

<吉田 有希さん>

最高の天気の中、とても気持ち良く登る事が出来ました。

利尻岳からは礼文、稚内、サハリンのパノラマの絶景で大満足でした。

今年もおやじの山旅に参加でき、皆さんと合えたことが何よりも嬉しかったですね！

<町田 明美さん>

今年もご一緒させていただき、ありがとうございました。今回は春先に膝を痛めてしまい、登山することはできませんでした。しかし、佐溝さんのおかげでポン山の素晴らしい景色と大雪、森のガーデンの花々に囲まれ、楽しいひと時を過ごしました。風の礼文島も体験できましたので、登山できなくても行って良かったと思っています。今後も加齢で不都合な体でも、行動できる範囲で参加したいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

PS：今回も「虫」騒動でお騒がせしました。特に虫が好きなのではないのですが、相手がそのように思っているようで困ってしまいます。

<津田 利栄子さん>

今年も自然の厳しさを実感しながらも、楽しい時間をご一緒させて頂きました。

ありがとうございました。

“私が参加してもいいのかしら？”と思いをながらの一年目。皆さんの優しさ、居心地の良さに4回目の参加になります。寄り道の多い私に、“おいおい又か？”と思われる事、多かったと思います。本当に申し訳ありません。「北海道は今回で一区切りとなるかも？」と聞き、“今年はずべての山行についていきたい”と、主人の山歩にも、なるべく一緒に出かける様にしました。しかし、「加齢で腰痛？」、来年はどうなるかな？皆さんの優しさに甘えてばかりではいけないと反省しております。許されるなら、一年でも長くご一緒させて頂ける様、自分なりに努力しようと思っています。どうぞ、よろしくお願い致します。

<佐溝アドバイザー>

山旅は楽しく元気で過ごせて良かったです・有難う御座いました。

町田明美さん、お付き合い頂き良かったです有難う感謝です。

参考；会計報告

| 項目 | 金額 | 備考 |
|---------|-----------|---|
| 宿泊費 | 955,152 | |
| ドリンク代 | 75,484 | |
| ガソリン | 21,377 | |
| レンタカー | 104,263 | 新千歳～稚内～協和温泉～新千歳；レンタカー1台分(68,180円) 利尻観光2台分(36,083円) |
| 高速 | 14,680 | 新千歳～稚内～協和温泉～新千歳2台分 |
| その他(調整) | 4,700 | |
| 合計 | 1,175,656 | |

【編集後記】

今回も、トラブルいろいろあったな～。個人的ながら、出発時の飛行機が、パイロット確保できずに、急遽、欠航となり別会社の便へ変更した為に、ホテル着が計画より2hも遅れ、夕食を食べそこないそうになったり。登山口下見で脱輪してヒグマ親子の徘徊地を、こわごわ歩いたり、狩場山の雪渓で妻が滑落したり。おやじのメンバーと合流してから、利尻観光、登山は順調だったものの、礼文の3日間は、天候に恵まれず、強風に翻弄されてのトレッキングだった。レブンアツモリソウは3日遅れでドライフラワー化し、現物の花が見えず。しかし、姫沼での逆さ利尻、快晴の利尻岳登山は、最高だった。天塩岳も眺望には恵まれなかったものの、頂上まで登れたし、協和温泉での最後の日の打ち上げも楽しかった。それから、今回は食事がすべて美味しかった。総括すれば、楽しい山行だったと思う。満足、満足。